

実刑6年ざわめく法廷

イタリア地震判決 世界の学者、反発

イタリア中部ラクイラの地震をめぐって科学者が裁かれた。被告は学者や政府の担当者ら7人。詳細はまだ明らかにされていないが、ラクイラ地震の判決は、「地域での大地震の可能性を予測しながら、行政側に正確に伝えなかった」とする検察側の主張を踏ま

え、求刑を超える禁錮6年の実刑だ。反発とまどいが広がった。裁判官が、早口に判決を読み進める。「6年?」「6年! 7人とも!」。

から行政、市民にどのような情報が伝えられ、どんな結果を招いたのか。

地震予知はできないと主張してきた東京大のロバート・ゲラー教授は「現在の科学では、その時点の地震活動がとくに危険とも安全とも断言できない。だが、いつ大地震がきてもおかしくない」と注意しなかったのは落ち度があった」と指摘する。それでも、「禁錮は厳しすぎる」とみる。

は過大に評価して伝えるべきだというメッセージか、あるいは、もう関わるべきではないという最悪のメッセージとなって科学者に伝わるだろう」

つきまとう問題だ。科学者問われたのは、地震国に

で、科学者は「大地震がないとは断言できない」としつつ、群発地震を「大地震の予兆とする根拠はない」と結んだ。その後、政府防災局は「安心して家にいていい」と発言した。

学者らを告発した遺族会のビットリーニ会長は「誰もが自らの行動に責任を負わねばならないということ、この裁判から学んでほしい」と話した。

判決の悪影響を心配する声もある。米科学誌サイエンス副編集長で地質学者のブルックス・ハンソン氏は、朝日新聞に対して「自然災害の被害を最小限にするため科学者と公的部門が共同で行ってきた作業に冷や水を浴びせる」と話した。「この判決は、リスク



大地震から3年半たったラクイラの中心部。街の再建は道半ばだ。22日、石田博士撮影

震大国なら、5分おきだ」

た。「この判決は、リスク

（石田博士「ラクイラ、行方不明」ワシントン、杉本崇）